消防秋田

題　字
初代会長　松　野　盛　吉
定　価　１部　５円
（購読料は年会費に含む）

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目１番２号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長　中　泉　松之助
電話　018－867－7320
FAX　018－863－5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印　刷
〒010-0951
秋田市山王７丁目５－29
株式会社　松原印刷社
電話　018－862－8760
http://www.matsubarainsatsu.co.jp

小型ポンプ操法の部

三種町消防団 山本支団第四分団　全国大会へ出場

＝ 第49回秋田県消防操法大会 ＝

秋田県と公益財団法人秋田県消防協会は、消防団員の消防技術の向上や士気の高揚、消防活動の充実強化を図るため、秋田県消防操法大会（小型ポンプ操法）を昭和三七年に実施して以来、昭和四六年と四八年の自然災害で中止したのを除き毎年開催しており、今年で四九回を数えた。

今年の大会は八月二八日(火)、由利本荘市岩城の秋田県消防学校放水訓練場で行われ、県内九支部の予選を勝ち抜いた小型ポンプ操法の部九分団、ポンプ車操法の部七分団が出場し、日頃の訓練の成果を競った。

競技の結果、小型ポンプ操法の部では三種町消防団山本支団第四分団が、ポンプ車操法の部では横手市十文字消防団第三分団がそれぞれ優勝し、総合優勝は横手市支部が勝ち取った。

なお、この大会は、来る一〇月七日(日)、東京都の東京臨海広域防災公園で開催される第二三回全国消防操法大会の予選も兼ねており、本県からは小型ポンプ操法の部で優勝した三種町消防団山本支団第四分団が出場することとなった。

開会式

開会式は午前一〇時、東成瀬村消防団佐々木謙吉団長の総指揮で進められ、選手入場、秋田県総合防災課佐藤昇課長が開会のことばを述べ、始まった。国旗掲揚の後、参観者も参加して殉職消防職・団員に黙祷を献げた。

続いて前年度の優勝団、支部から優勝旗が返還された。

消防庁長官優勝旗
秋田県消防協会長優勝旗
小坂町消防団（ポンプ車操法）
秋田県知事優勝旗
鹿角市消防団（小型ポンプ操法）
日本消防協会長優勝旗
鹿角支部（総合）

秋田県堀井啓一副知事、秋田県消防協会中泉松之助会長が主催者の挨拶を、また、秋田県議会小松隆明副議長がご来賓を代表して祝辞を述べられた。秋田県消防学校本間稔校長より審査長指示が行われ、最後に前年度総合優勝の鹿角支部を代表して鹿角市消防団関清考班長が選手宣誓し、競技が開始された。

平成二十四年度全国統一防火標語

消すまでは　出ない行かない　離れない

あいさつ

秋田県副知事　堀井　啓一

本日、第四九回秋田県消防操法大会を開催いたしましたところ、ご来賓の皆様をはじめ関係の皆様には、ご多用中にもかかわらず多数ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本年度は、各支部の予選を勝ち抜いた七一名の精鋭が出場されますが、選手の皆様におかれましては、日ごろの訓練の成果を存分に発揮され、消防技術の向上と消防団活動の一層の充実につなげていただきたいと思います。

消防団の皆様におかれましては、今後とも「自らの地域は自らが守る」という信念のもと、地域の安全・安心な暮らしの実現のため、迅速かつ適切に対応していただきますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の運営にご協力をいただきました消防本部の皆様に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、お集まりの皆様のますますのご健勝と、一層のご活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

あいさつ

秋田県消防協会会長　中泉松之助

本日は、秋田県議会副議長の小松隆明様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、このように盛大に第四九回秋田県消防操法大会を開催できますことを心から御礼申し上げます。また、開催に当たり、会場の準備や審査などにご尽力をいただいております秋田県消防学校、秋田県消防長会並びに消防職員の皆様には、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

選手の皆さん、出場おめでとうございます。皆さんは、厳しい地区予選を見事勝ち抜かれ、今、ここにおられる訳ですが、本日のこの大会に向け、仲間とともに体力、気力の限界まで訓練を続けてこられたことと存じます。皆さんのご努力に敬意を表しますとともに、陰になり日向になり皆さんを激励し、支えてきて下さいましたご家族の皆様をはじめ関係者の皆様にも心から感謝申し上げます。

選手の皆さん、これまでの訓練の成果を遺憾なく発揮され、悔いのない大会となるよう競技して下さい。

祝辞

秋田県議会副議長　小松　隆明

本日、第四九回秋田県消防操法大会が、県内各地の予選を経た、選りすぐりの消防団の出場を得まして、このように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

本日御出場の皆様は、各地区予選を勝ち抜いてきた方々でありますので、競技に際しましては、日ごろの訓練の成果を存分に発揮し、全員が一丸となって、地域の防災力の高さを競っていただきたいと存じます。

私ども県議会といたしましても、災害に強い県土づくりはもとより、皆様が活動しやすい環境整備に向け、引き続き努力を重ねて参る所存であります。

結びに、本日の大会に参加されました消防団員の皆様、そして災害時等に皆様方を送り出して頂いているご家族の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

第49回秋田県消防操法大会成績表

【小型ポンプ操法の部】

順位	消防団名	タイム（秒）	総得点（点）
優勝	三種町消防団山本支団第４分団	41.55	90.5
第２位	大仙市消防団大曲支団第２分団	40.92	86.0
第３位	横手市山内消防団第１分団	42.24	79.0
優秀賞	小坂町消防団第４分団	45.34	75.0
	八郎潟町消防団第５分団	41.51	70.5
	にかほ市消防団第６分団	43.15	69.5
	東成瀬村消防団第１分団	43.88	64.0
	大館市消防団比内第５分団	44.64	59.5
	秋田市消防団河辺第３分団	53.49	58.0

【ポンプ車操法の部】

順位	消防団名	タイム（秒）		総得点（点）
		第１線	第２線	
優勝	横手市市十文字消防団第３分団	52.03	66.84	177.0
第２位	鹿角市消防団第５分団	52.47	61.63	171.0
第３位	大館市消防団比内第１分団	53.35	66.10	153.5
優秀賞	にかほ市消防団第６分団	52.83	65.58	147.5
	大潟村消防団第３分団	57.52	73.51	140.0
	八峰町消防団第１分団	59.45	69.79	139.5
	秋田市消防団保戸野分団	58.84	69.45	134.0

【総合の部】

優　勝　横手市支部（総得点　256.0点）

審査講評

各出場団は、それぞれの支部代表として熱戦を繰りひろげた。

今大会で審査班長を務められた秋田県消防学校佐藤広樹教務班長に、審査を通じて感じた事項や印象などを伺ったので紹介する。

■講　評

昨年以上の熱のこもった接戦となった。

特に、全国大会出場がかかる小型ポンプ操法の部はレベルが高く、いずれのチームも士気にあふれ、節度ある操法が展開された。優勝チームの得点も高得点であった。

ポンプ車操法の部は、全般にホースラインの乱れが多く見られたが、例年と遜色ない好タイムでの争いであった。

第八回 消防団員意見発表会(二)

福士　保洋
・八峰町消防団
班長
・勤続一三年
・農業

平成七年に結婚して旧峰浜村石川地区に転居。
平成九年に脱サラして就農、地域農業の担い手として水稲、長ネギ、キャベツ等の生産に取り組んでいる。
平成一一年に地域の人たちから誘われて消防団に入団。
地元郷土芸能保存会に参加し、「石川駒踊り」の踊り手としても活躍中。また、平成二四年五月から八峰町教育委員に就任するなど地域に貢献している。

「地域における消防団の役割とは？」

「消防団の役割って何だろう？」田んぼで農作業をしながら、たびたび思いにふける時があります。地域住民の生命と財産を火災や災害から守ること。それが消防団にとって最大の使命に間違いありませんが、普段の暮らしにおいて私たちが地元地域に果たす役割とは何か考えてみました。

私は縁あって八峰町峰浜の石川地区に根を下ろし十数年、農家として地域の人たちや農地と向き合いながら暮らしてきました。石川地区は町内でも内陸側に位置しており、山林と水田に囲まれた、高台に広がる二〇〇戸余りの農村集落です。婿入り前の頃、石川を訪れるたびに「かやぶきの古い家が全然見当たらない」「集落内の区画が随分整理されている」と感じていました。それもそのはず、この石川地区は、昭和三八年四月一五日に焼失面積二万平方メートル、全焼家屋一三八戸、半焼家屋七五戸、被害総額は当時で二億四〇〇〇万円、災害救助法が発動されるほどの大きな火災を経験した「大火の村」だったのです。就農二年目に慣れない土地で、不安もある中で消防団への誘いを受け入れたのは、集落のつらい歴史を知って程ない頃でした。

入団当時、団員はずっと年上の人ばかりで、同世代が全くおらず心配しました。しかし先輩団員のみなさんは舅の友人や知り合いがほとんどだったこともあり、活動のたびに、ときには酒を酌み交わしながら、大火で焼け出された後の出稼ぎ生活や集落独自の簡易水道の布設と防災を踏まえた道路整備などの集落復興の様子、現在の集落住民同士の関わり合いや各家庭の暮らしぶり、農地開拓事業や集落営農など農業の歴史や水源と山林の集落財産管理にいたるまで、石川地区の人たちが団結して大火から蘇らせた「集落の歩み」を、駆け出しの私に熱心に教えてくれました。そのおかげで消防団をきっかけとして住民同士の絆が深まり、また地域をより理解することで「地元地域は自分たちが守る」という意識を強く自覚することが出来ました。新米の自分でも分団のために何かできないかとの想いから、入団二年目に小型ポンプ操法の選手に志願し、現在も選手として分団長を先頭に団員一丸となって訓練に励んでいるところです。

入団後一三年がたった現在、いつしか私は分団の班長になりました。仲間として共にがんばって来た先輩団員のほとんどは分団を去り、そして「二世」を含む三〇才代以降の若い団員が三分二を占める「著しい世代交代」が進みました。過疎化が進む町内の農村集落において、これほどまでに若い世代が暮らす地区はとても珍しく、そしてまた頼もしく感じています。

世代交代の功罪をあげると、活動への参加率は以前と比べ格段に高くなり、分団としての任務遂行への不安が少なくなりました。反面、消防団活動の経験が浅い団員が多いため、活動の内容を理解するにはまだまだ時間が必要な状態です。しかし彼らは人一倍地元への愛着が強く、互いにとても仲が良いため、消防団員としても、また分団にとっても将来の「伸びしろ」は計り知れません。この「伸びしろ」を確実に活かしていくため、先輩団員から受け継いだ「地域の歩み」を彼らに一つひとつ伝え、地元地域は自分たちが守るという「誇り」を育てていくことが「消防団の未来」を創ることになり、また先輩団員への恩返しに繋がると信じています。

昨年秋、二年に一度行っている地元の祭り「石川フェスティバル」において、消防操法訓練を題材にした手作りの寸劇を第五分団のみんなで披露したところ大好評でした。地域の人たちに消防団の存在をアピールできた最高のひと時でした。日頃の消防団活動は地域住民の理解と協力なしでは成り立ちません。

子どもたちが地元で暮らすことに心地よさを感じ、将来に渡ってこの地域を愛し、住民の絆を守り続けてくれること。つまり「地域の跡継ぎ」を育てることが地域における消防団の役割であることを信じて、これからも活動に励みたいと思います。

吉田　幸太

・男鹿市消防団
班長
・勤続一二年
・団体職員

平成一二年四月一日、男鹿市消防団に入団。
消防団活動においては、常に職責を自覚し、職務遂行にあたっている。また、多くの研修に積極的に参加するなど、研鑽努力を惜しまないことや、上司や同僚団員から信頼が厚いことから、平成一八年六月一日二六歳の若さで班長に昇格しており、現在も消防団活動や地域防災活動の最前線で活躍し、地域に貢献している。

「おらほは、おらほの消防団」

私は、高校を卒業して、すぐ就職し、一年後の一九歳の時に勧誘を受け消防団へ入りました。三三歳で病気で亡くなった父も消防団員でしたので、子供の頃から憧れていたことと、相棒も入団するとのことで、何の迷いもなく入団しました。

子供の頃、父は土建業のため、普段は作業服姿がほとんどでしたので、たまに見る年始廻りや出初式の消防団の制服姿が誇らしく、本当にかっこいいなぁ、父さんみたいになりたいなぁと思っていました。

年始廻りに出かける前、買い物や、遊びに行く約束をし、「早く帰ってきてねぇ」と送り出したものの、お決まりの公民館での反省会。遅いなぁと迎えに行っても「もう少し」と結局、夜遅くまで酒を呑み、約束は破られ、嫌な思いをしたことも今ではいい思い出です。

私事ですが、今年四月二七日に、やっと私も父親になることができました。妊娠が分かった時は、最初は女の子がいいと思っていましたが、元気な男の子が産まれました。もう少し大きくなったら、私が消防団の父に憧れていたように、息子にも同じように私を思ってくれるよう、今まで以上に頑張っていかなければならないなぁと、身の引き締まる思いです。

私が消防団に入団してから幸いな事に、建物の大きな火災等は発生していませんが、捜索活動や大雨による土砂災害の応急処置、寒風山の山火事では、夕方から次の日の朝になるまで消火活動を行ったこともあります。しかし、勤め人なので、日中はどうしても火災、災害が発生しても現場まで二〇分～三〇分はかかってしまいます。非常に歯がゆいのですが、仕事があるからこそ消防団の活動が出来るんだと割り切っています。消火活動以外にも消防団員の活動は沢山あると思います。

私の町内は約四〇軒しか家の無い、とても小さな部落です。高校の時から、「くされたまくら」と言われるくらい、何にでも参加してきました。町内の集まり、運動会、草刈り、盆踊り、なまはげ、そして消防。そうしていると、今では町内の中で、じいさんでも、ばあさんでも、子供でも、知らない人は一人も居ません。小さな部落だからかもしれませんが、消防団員にとっては大切な事だと思っています。台風後、巡回を行う際、高齢者の世帯には、必ず一声掛けるようにしています。「大丈夫だが？何ともねがったが？」「何ともねがった。いがったなぁ廻って来てけで。何かあったらまた来てけれなぁ」こんな些細なやりとりが消防団員になって本当に良かったと思える瞬間です。防災、防火にも役立つのではないでしょうか。

操法大会では、正直、男鹿市でも中々上位に入れるような分団ではありません。分団の中でも班が六つあり、毎年順番に当番が回ります。その為、六年に一度しか大会には出場できませんが、特定の団員だけがいつも大会に出るのではなく、沢山の団員が独特の大会の緊張感を体験し、消防器具の扱い方も熟知しています。大会では優勝は難しくても、団結力があり、個性的な団員が沢山いる我が分団を誇りにし、これからも力を合わせて頑張っていきたいと思います。

男鹿市及び秋田県の無火災を祈願しています。

鈴木　正

・秋田市消防団
副団長
・勤続二七年
・自営業

昭和六〇年四月、消防団に入団。
現在は副団長、方面隊長として尽力している。
災害現場や会議等においてリーダーシップを遺憾なく発揮し、後輩の良き手本となり、また、若手育成にも力を注いでいる。
平成二〇年には、お嬢さんも消防団に入団、親子で地域の安全安心に貢献している。

「消防団員は地域のスーパーヒーローたれ」

夕方、ある会合に向かう途中、車のラジオからけたたましいニュースが飛び込んできました。群馬県上野村御巣鷹の峰に五百人乗りのジャンボジェット機が墜落、炎上したとの放送でした。テレビの画面いっぱいに、上野村と書かれた赤い半纏を着た消防団員が大勢写っておりました。

私は、この光景が絶対に忘れられません。なぜならばこの年、昭和六〇年四月一日付で秋田市消防団四ツ小屋分団小阿地班の一員になったからです。操法大会の当番班に当たっていた年で補助員として、入団を勧められていました。前々から消防団

には少し興味があり、建築大工という職業柄、建物に関しては多少の知識が消防の為に役立つのではという思いがありましたから二つ返事で入団を決めました。

その年の五月頃より朝晩の練習が始まりました。私の役割は、ポンプや道具を揃えたり、ホースを巻いたりの初歩的な事ばかり。さらには、先輩の言う通りに動き、人より早く来て、帰りは最後まで後片付けをしてというように上下関係がはっきりしていました。消防団という組織上当たりまえの事ですが、今では多少変化が見られるように感じます。この時の操法大会の結果は、一部で小さなミスがあり上位には入れませんでした。しかし消防一年生の私にとっては、大変貴重な経験をさせていただく事が出来た大会でありました。

そんな余韻がさめやらない八月一二日の夕刻、航空史上最大の大惨事が発生したのでした。死者五百数名、それでも奇跡的に四名の生存者が発見され、すこしばかり安堵がもたらされたものでした。この四名の発見に重要に関わったのが上野村消防団の働きであったと思います。足元の悪い中、大惨事による異臭や熱風、目をそむけたくなる光景の中で、黙々と働く姿は、想像を絶する重労働だったに違いありません。

私は、この時の赤い半纏が目に焼きついて離れないのです。この航空機事故以降も、火災はもとより、台風、水害、山崩れや土砂災害、人命検索等々、消防団の活動は、大変に多岐にわたっております。まだ記憶に新しいところでは、阪神淡路大震災や新潟中越地震、そして昨年三月一一日の東日本大震災、これらの災害現場で、真っ先に画面に出てくるのは、あの赤い半纏姿の凛々しい消防団員の姿であります。災害は、大事な人命を奪い、大切な物や思い出を何一つ残すことなく、無断で土足でやってきます。しかし、消防団員は、その災害のむごさに負けていては地域住民の信頼を得る事はできません。

いついかなる時でも地域住民の生命と財産を守る為に常在戦場の気持で、普段から消防器具の手入れや整頓、設備の管理、自分達の守備エリア内の点検箇所等々のチェックを怠らず、いざ出動には、より安全に、より正確に、そしてより速く行動する事が、消防団としての大切な着目点ではないでしょうか。

この三つの着目点は、操法大会の主眼であり、消防団そのものの主眼でもあります。

我が町、我が地域になくてはならない存在である消防団であります。ある人が、消防団精神とは、「人間愛であり、郷土愛である」と言われました。私もまったく同感であります。人が大事であり、郷土が大切だからこそ我々消防団は頑張れるのであります。その意味で、昨年三陸の地で住民を守ろうとして殉職された私たちの仲間である消防団員に対しては、心の底から感謝とご冥福をお祈り申し上げるものです。

三陸で亡くなった二五四名の消防団員よ、あなた達こそ地域のスーパーヒーローです。生きているあなた達と固い握手を交わしたかった。願いが叶わず残念ですが、今度は私達があなたがたの分まで頑張ってまいります。地域の人々が安心して暮らせるよう、地域のスーパーヒーローをめざします。

消防半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町　☎32－0416

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店
綜合防災設備センター
株式会社 高義商会

（営業種目）
トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 タカギ
秋田県横手市寿町１番28号
TEL (0182)(32)3880

（営業種目）
日本機械自動車ポンプ
トーハツポンプ
各種消防機械器具
消防設備保守点検
◇
キンパイホース
シバウラポンプ
各種消火器

ホームページ http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

第六六期初任教育

修了式を控え 応用訓練も本格化

秋田県消防学校

四月一三日(金)に入校式が行われた第六六期初任教育も、九月二一日(金)には修了式を迎える。今月は、消防学校から初任教育の訓練の様子が届けられたので、主に実科訓練を中心に紹介する。

初任教育は、新たに採用となった消防職員を対象に、消防全般にわたる基礎知識と技術の習得や厳正な規律、旺盛な気力、体力の錬成を図るための基本的教育訓練を実施し、修了後には、指揮者の下で警防隊員として活動できる能力を養成することを目的に、消防学校で約半年間にわたって実施されるものである。

警防隊員には、火災、風災害、地震等の災害の防ぎょ等に関する知識・技術を習得することにより、大規模災害への対応を含めた災害現場における警防活動を適確に行う能力が求められている。

このため四月から五月にかけての入校当初は、消防制度や消防法、火災防ぎょ、救急、危険物等の座学、訓練礼式やロープ結索、小型ポンプ操法、三連梯子等の基礎的な実科訓練に加え、体力錬成が主に実施される。入校生の中にはこの一ヶ月を振り返って「確かに訓練や講義は厳しいものばかりで毎日疲労を感じています。特に訓練は何もかもが初めてのことで、動きや注意事項がしっかりと理解できていないため、節度のない動きになったり、要点が押さえられていなかったりと確認すべき点が多くありましたが、回数をこなすことで徐々に動きがスムースになってきました。また、この一ヶ月で腕が太くなり、体も引き締まった」と感想を述べていた。

六月、七月には、実科訓練も専門的になり、訓練礼式では行進間の小隊訓練や部隊動作、機器取扱訓練では空気呼吸器や三連梯子の操作、ロープを使用した渡過や降下・登はん、消防活動訓練も小型ポンプからポンプ車へと移行していく。

そして八月に入ると、先行隊や送水隊の活動訓練等の中継隊形活動要領、応急梯子救出や交通事故救助等の救出法、人命検索や救助要領等の建物火災活動要領などの応用訓練も本格化し、第六六期生は猛暑が続く中、真剣に取り組んでいる。

支部情報アラカルト

今年も華やかに

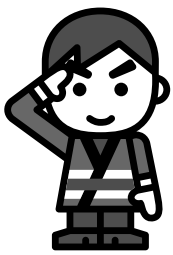
＝鹿角支部＝

去る七月一日（日）、鹿角市役所駐車場を会場に、平成二十四年度第六十四回秋田県消防協会鹿角支部消防訓練大会が開催されました。大会には鹿角市、小坂町から約一千人の消防団員が参加し、日頃の訓練の成果を披露しました。今年も恒例となりました本部付女性消防団員によるカラーガード隊が実施され、華やかな開会式となりました。約二ヶ月前から練習を始め、仕事が終わった後の練習で大変だったと思いますが、本番では息の合ったすばらしい演技でありました。本部付女性消防団員は訓練大会だけではなく、市のイベントや出初式等でも活躍しています。今では鹿角支部にとって欠かすことの出来ない存在となっています。

昨年、鹿角支部は秋田県消防操法大会で、ポンプ車操法、小型ポンプ操法の両方で優勝を勝ち取り、総合優勝を果たしました。今年も総合二連覇を目指し、鹿角支部が一致団結し毎日の訓練に励んでまいりました。

今後も「地域の皆さんに愛される消防団」を目標に精進し、鹿角の安全を守っていきたいと思います。

（情報提供＝鹿角支部）



火災の発生状況（速報値）

（秋田県総合防災課調べ）

	平成24年		平成23年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建　物	19	161	21	158	220	－2	3
林　野	1	28	5	14	16	－4	14
車　輛	4	23	4	28	44	0	－5
その他	7	56	15	48	56	－8	8
合　計	31	268	45	248	336	－14	20
死者数	0	11	0	25	34	0	－14
負傷者数	4	45	6	46	62	－2	1

森田ポンプ　ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管　消防被服一式
各種消火器　消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185)(52)6361
(52)6494

地域の防災、災害対策に貢献！

消防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社
秋田市山王六丁目１番24号　ＴＥＬ018（863）1551㈹
山王セントラルビル７Ｆ　ＦＡＸ018（824）3651